

## 巻頭言

『自由学園年報』が1997年以来、毎年発行され、このたび第19号（2015）が刊行されますことを嬉しく思うと共に、これまでの寄稿者と編集者の努力に感謝と敬意を覚えます。

今号の主な記事は、2014年11月27日に池袋の東京芸術劇場で開催された「第30回自由学園音楽会」についてです。音楽会に向けて、各部の音楽の指導者がどのような思いで準備を進め、当日を迎えたかが述べられていますが、他の多くの行事と同様、音楽教育の発表会も普段の教育の積み重ねの上に立ったものであり、好き嫌いや得手不得手に拘わらず、全員が参加するところに意義があります。とはいえ、日常とは異なる、一流のホールで演奏する経験は滅多に得られるものではなく、素晴らしい勉強をさせていただいたこと共に、指導にあられた先生方のご尽力に対して、あらためて心から感謝申し上げる次第です。

女子部と男子部の「習字」についての報告も、一部ではあっても、生徒たちの思いと成長振りを実際に見ていただけるととてもよい機会となっています。時間割外の活動ですが、毎週の生徒たちの努力とそれを見てくださっている先生方のご労苦に対しても感謝の意を表します。

今回は、私が担当してきた海外とのかかわりについて、記録に残すことに意味があると考え書き出してみました。このような活動が出来るのも、ホームステイを快く引き受けてくださる学園関係者の皆さまと、学内の主に英語の先生たちの協力によるものです。

最高学部では、以前から検討されてきた研究紀要『生活大学研究』がいよいよ、今年の秋、オンラインジャーナルとして刊行されることになりました（J-STAGEのホームページ <https://www.jstage.go.jp> か自由学園のホームページのバナーからお入りください）。『生活大学研究』とこの『年報』の両方が相まって、教師の研究・研修と教育活動が盛んになって、多くの方々に読んでいただき、自由学園の教育への理解を深めていただけることを心から願っています。

2015年10月

学園長 矢野恭弘